

# Japan Technology Outlook

— IT技術者によるIT技術者のための動向情報 —



日本アイ・ビー・エム  
システムズ・エンジニアリング株式会社  
テクノロジー・イノベーション  
ITアーキテクト

**伊藤 英樹** Hideki Itoh

**【プロフィール】**

1992年、日本IBM入社。UNIX®基盤の技術支援およびデリバリーを担当。2007年よりJTOプロジェクト・リーダーとして活動を推進。

**■ Japan Technology Outlookとは**

Japan Technology Outlook (JTO) は、日本IBMのIT技術者がIT技術者のために毎年発行する技術提言書です。JTOの目的は、グローバル・レベルの技術動向とその技術の成熟度および日本のビジネス環境を踏まえ、お客様が直面されている問題の解決や次期IT環境構築のロードマップ作成のための技術的判断に必要なコンテンツと、IT技術者として最善と考える具体的な取り組み方をドキュメントとして示すことです。

このJTOは、日本アイ・ビー・エム システムズ・エンジニアリング株式会社 (ISE) が中心となり、営業、サービスおよび研究開発部門のIT技術者によるバーチャル・コミュニティをベースに議論を重ね、一年がかりで作成します。

言い換えれば日本IBMのIT技術者の集合知といってもいいでしょう。お客様に向き合うIT技術者が、ためらうことなく自信を持って、お客様の課題解決のために新しい技術を提案できるように、そんな思いが詰まったレポートです。

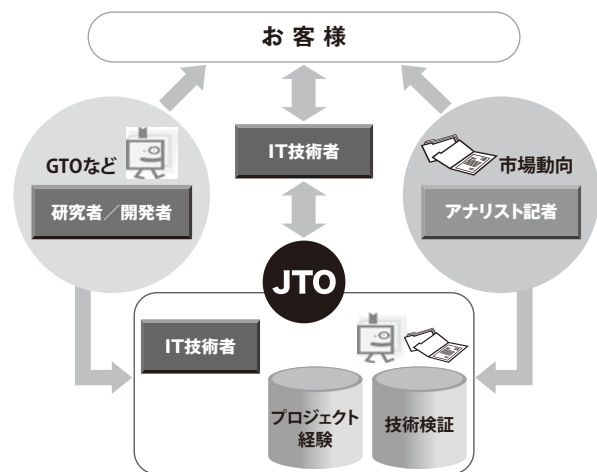


図1. JTOとは

**■ 実践に結び付く技術動向**

IBMは基礎研究部門を中心に、この先3～10年のうちにビジネスや社会に変化をもたらすであろう技術の動向を、Global Technology Outlook (GTO) として提示しています。「e-business」も「On Demand」もGTOから生み出された戦略の1つです。GTOはIBMのビジネス戦略や技術戦略に結び付く技術の動向について記述しており、その後のIBM製品やサービスに展開されていきます。

一方、10年という長期スパンではなく、「2～3年後にこの技術はどうなっているのか」「日本のビジネス環境がどのように変化するのか」という視点で、実現可能な技術の動向やIBMにおける現在の取り組みの情報を提供するのがJTOです。その意味で、JTOはいわゆる技術白書ではありません。JTOには、IT技術者が数年先を見据えて重要であると認識している技術に関するビジョンや思いが詰まっているのです。「どのようにすればその技術で実現（インプリメンテーション）できるか」という視点が強く出ています。

今年3月、JTOでは表1の6テーマについてJTO2009を発刊しました。お客様に概要をご紹介できるよう、「JTO2009のご紹介」という小冊子をご用意しています。個々のテーマに関するご説明もご要望に応じて行っております。関心のある内容がありましたら、IBMの担当者またはJTO事務局 (E-mail: JTOFFICE@jp.ibm.com) にぜひご相談ください。

表1. JTO2009のテーマ一覧

JTO2009 テーマ	キーワード
データ・アクセスの高速化技術	インメモリーDB、分散キャッシュ
ストリーム・コンピューティング	Complex Event Processing (CEP)、Event Driven Architecture (EDA)
Virtualization Security	仮想化、セキュリティー
エンタープライズ・モバイル	モバイル、スマートフォン
IT Key Technologyに対応した企業ネットワーク・デザイン	SOA、グリーンIT、仮想化
JEANS (JTO Enterprise Appliance for New IT Services)	仮想化、アプライアンス、非機能要件 (NFR)、クラウド・コンピューティング